



## 開催実施報告書

- 催事名 温泉を活用した健康づくり全国大会2019三朝町  
健康と温泉フォーラム2019in三朝町
- ・会期 令和元年10月23日(水)～24日(木) 2日間
  - ・会場 鳥取県三朝町総合文化ホール・プランナールみささ
  - ・関連事業 第8回日本の名湯百選連携会議  
(10月24日午後兵庫県新温泉町湯村温泉)
  - ・参加者概数 初日200名 二日目100名
  - ・プログラム 添付記念誌の通り



### ■催事記録・報告(要約)

初日(令和元年10月23日(水))

#### 第一部(900～1200)「温泉を活用した健康づくり広域連携会議」

温泉を活用した健康づくり広域連携会議は三朝町総合文化センター大会議室において、定刻900時に開会された。松浦弘幸三朝町長が議長として、今回の連携会議に至る経緯を含めた開会挨拶がありました。「過去10年間に渡り、三朝町を起点とした「ラジウム・ラドン温泉を利用した健康日本推進連絡会議」を前身として発展してきた「ラジウム・ラドン温泉広域連携会議」は、2013年より、域内の全国屈指の放射能泉を共通の資産として連携する温泉地(新潟県阿賀野市、鳥取県三朝町、秋田県仙北市、山梨県北杜市、鳥取県倉吉市)で連続開催してきました。



2011年の東日本大震災による放射能泉の風評被害を払拭するための、医師向けのガイドブックの発行を始め、様々な啓蒙普及事業を行ってきました。2015年6月の温泉利用型健康増進施設の医療費控除の条件緩和などの政策提言では、既存の温泉地に加え、北海道豊富町、熊本県菊池市、大分県竹田市の自治体も参加いただき、連携温泉の枠を超えた活動が増え、同じ泉質を持つ温泉地だけの連携は一応の節目を迎えるようになりました。昨年、2018年の阿賀野市でのフォーラム開催に合わせ、「温泉地の連携に関する意見交換会」を開催し、様々な意見を交換し、改めて日本の温泉地の課題を共有することができました。そして、より広い温泉地の連携を図り、医療・介護・福祉などへの温泉の社会的活用を全国の温泉地に展開し、さらに推進しようとする一応の方向性が確認されました。今回の三朝町で開催する本会議の主旨は其のような背景のもと、超高齢社会、健康寿命の延伸・医療費削減など保障政策の社会的な基盤要請がある中、温泉地を持つ地域行政は観光資源としてだけでなく健康・福祉など総合的に取り組んだ温泉行政が求められています。そのため、限られた資源である温泉を地域資源としていかに有効に活用するか、全国の温泉の健康活用に積極的に取り組む自治体を中心となって広域の連携を図るとともに、今回、さらに温泉に関係する産官学の立体的な連携を志向し、それぞれの積み重ねられた経験や政策の情報を的確に共有できるネットワークの構築を通して、それぞれの域内の住民の豊かで健康な生活を創生していくことを目的として開催いたします。」

続いて、環境省自然環境局温泉地保護利用推進室の山本麻衣室長の来賓の挨拶に続き、健康と温泉フォーラムの合田純人常任理事より会議参加者の紹介があり、同氏の司会により会議が始まりました。

下記7件のプレゼンテーションがありました。

1. 「日本温泉気候物理医学会・温泉療法医会の活動ー温泉療法医の広域連携による温泉活性化計画」三友紀男（NPO法人健康と温泉フォーラム会長、温泉療法医会会長）
2. 「温泉利用型健康増進施設と人材育成について」栗原茂夫（一般財団法人日本健康開発財団理事長）
3. 「温泉を活用した地域の健康づくりへの挑戦ー日本一の炭酸泉」湧出地を活かして」首藤勝次（大分県竹田市市長）
4. 「北海道豊富町の取り組み」河田誠一（北海道豊富町長）
5. 「本市が目指す温泉を活用したツーリズムの展開ー 健幸づくりと連動したヘルスツーリズムの取組」大西倉雄（山口県長門市市長）
6. 「市民と湯治客が往来する賑わいのある温泉地づくり」石田耕太郎（鳥取県倉吉市長）
7. 「温育と健康づくりー地域で温泉を学び、健康づくりに活かす」芳野勇太郎（熊本県菊池市副市長）

15分の休憩に続いて質疑応答で下記の報告や発言が続きました。

1. 熊野徹児（和歌山県椿温泉観光協会会長）
2. 倉沢章（長野県上田市別所温泉上松や会長）
3. 中澤敬（草津温泉観光協会顧問、前草津町長）
4. 立谷誠一（和歌山県白浜町社会福祉法人白浜コスモスの郷理事長、元白浜町長）
5. 坂本誠（健康と温泉フォーラム専門委員）

首藤勝次竹田市市長より、「連携会議の継続に関しては、理念や指標でなく温泉の社会的活用を阻害する複数の課題（例、温泉効果のエビデンス欠如、研究や活動資金のための入湯税の見直し等）の解決にむけた積極的な政策提言や目標を定めた行動評価などが必須でそのような具体的な取り組みを志向してほしい」との指摘がありました。連携会議の継続の必要性に関しては参加者全員で承認され、指摘された課題は、今後の連携会議の企画推進の中で適時、考慮されることが確認されました。最後に、松浦弘幸三朝町長が議長として提議された案件を総括し、予め配られている「温泉を活用した健康づくり広域連携会議三朝宣言」（添付資料）を説明し、全員一致で採択され、午後の会議で発表することを確認し、11時45分閉会を宣しました。

## 第二部（1330~1700）

午後は、健康と温泉フォーラム2019in三朝町の開会式で始まりました。松浦弘幸（三朝町長）、三友紀男（健康と温泉フォーラム会長）の主催者挨拶に続いて、地元鳥取県の平井伸治知事、環境省自然環境局温泉地保護利用推進室山本麻衣室長、岡山大学那須保友副学長の来賓挨拶がありました。壇上には他に地元と後援団体の代表、福田茂樹（三朝町議会議長）、栗原茂夫（一般財団法人日本健康開発財団理事長）、岡田友悟（NPO法人日本スパ振興協会理事長）に着席いただきました。

開会式のあと、午前中の会議に参加者した国、自治体と温泉地代表が登壇、午前中に採択された「温泉を活用した健康づくり広域連携会議三朝宣言」が議長である松浦弘幸三朝町長より発表されました。小休憩をはさみ、舞台では温育プログラムとして、三朝中学校制作の三朝温泉PRビデオの上映と三朝小学校3年生46名全員による三朝温泉誕生の物語を、スライドとダンスで構成した「総合学習：地域の宝を見つけよう」の発表がありリズムカルな振り付けと軽快な



音楽のパフォーマンスが場内に響き会場は大いに盛り上がりました。

休憩のあと、記念講演として女優で写真家の松田美由紀女史の「三朝温泉と健康と私」と題したトークショー講演がありました。

16時過ぎから全国の参加温泉地から協賛いただいた旅館宿泊招待券他の抽選会があり、17時までに初日の会議を終了しました。会場のホワイエ「ロビー」では参加温泉地のポスターやパンフレットなどの展示もあり参加者は帰路の足を止めていました。

1830分より場所を、ブランナールみささの宴会場に移し、歓迎レセプションが開催されました。地元代表挨拶を鳥取県中部総合事務所の吉川寿明所長、乾杯挨拶を三朝町議会福田茂樹議長が発声し宴会が始まりました。地元及び全国の各地から参集した70名を超える参加者は三朝町のまったけの土瓶蒸しなど秋の味覚を堪能しました。全国の温泉地から持ち込まれた地酒自慢や、地元の郷土芸能集団「因伯音（インパクト）」による演奏パフォーマンスで大いに盛り上がり午後8時30分定刻に三朝温泉旅館協同組合の岩崎元孝理事長の閉会挨拶を過ぎても盛り上がった宴会が秋の夜長のように続きました。

## 二日目（令和元年10月24日(木)）

### 日本遺産ツアー（7時半～10時）

- ①三徳山座禅体験（参加者9名） ②熱気浴体験（8名） ③鉱泥湿布体験（4名）

### 第三部（1030～1200） 新・湯治セミナー（環境省共催）基調講演

「地域の健康づくりに果たす温泉の役割」山本麻衣（環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長）に続いて、坂本誠（健康と温泉フォーラム専門委員）のコーディネートで「温泉を活用した地域の健康づくりへの挑戦」をテーマに三人のパネラーの発表が続きました。

- 1.「世界に通用する個性豊かな温泉地づくりー日本一の炭酸泉湧出を活かして」首藤勝次（大分県竹田市長）
- 2.「肘折温泉における温泉療養相談ー28年間の取り組みをふまえた成果と課題」 荒川光昭（山形県大蔵村診療所所長）
- 3.「三朝温泉の魅力」新藤祐一（NPOみささ温泉理事長）

熱のこもった発表が続き、質疑応答の時間がすくなくなりましたが、3人のそれぞれの立場（行政、医療、地域づくり）での経験豊かな発表はお互いに「地域を慈しみ、愛着をもって地域と共に生きる」という理念を共有し、其の理念へ向かう様々な個性の地域遺伝子を持つ環境の魅力を磨くことこそが全国の活性化を図る温泉地への大切なメッセージとして届くことを参加者一同は心に留めることができました。首藤市長の「ふりかえれば未来、立ち止まればただの過去」という言葉をそれぞれの地域でいかに活かすか、松浦三朝町長の二日間の会議の閉会の辞に重ね、参加者全員が其の言葉の思いを持ち帰ることを確信して、無事すべてのプログラムが終了しました。改めて、地元関係者、全国からの参加者に御礼申し上げ二日間の事業の開催実施報告といたします。



## 関連事業

### 日本の名湯百選®連携会議（令和元年10月24日15時30分～18時）

三朝でのフォーラムを終了した一部全国の温泉地関係者は兵庫県新温泉町湯村温泉で日本の名湯百選®連携会議を開催しました。日本の名湯百選認定で今回の参加温泉地は下記の通りです。

兵庫県新温泉町（浜坂・七釜・湯村温泉）、鳥取県倉吉市（関金温泉）、山口県長門市（俵山温泉）、熊本県菊池市（菊池温泉）、長野県上田市（別所温泉）、群馬県草津町（草津温泉）

引き続き開催された地元との交流レセプション冒頭に、本年度湯村温泉が、同じ域内の既認定温泉地の浜坂、七釜温泉に追加認定され、「浜坂、七釜、湯村温泉」としての認定書が三友会長より、新温泉町の田中孝幸副町長と朝野泰昌町観光振興協議会会長に手渡されました。



## 添付資料

1. 温泉を活用した健康づくり連携会議三朝宣言
2. 温泉を活用した健康づくり連携会議資料
3. 参加者リスト（地元除く）
4. 報道記事
5. 記念誌（テキスト）

## 添付資料-1 温泉を活用した健康づくり連携会議三朝宣言



## 温泉を活用した健康づくり広域連携会議三朝宣言

本日、私たち、全国屈指の温泉地代表は、日本遺産の地、三朝温泉に集結し、「温泉を活用した健康づくり広域連携」をテーマに産官学の多様な視点で論議し、温泉の健康・福祉などへの社会的活用の可能性と其の課題を共有いたしました。

超高齢社会の中、健康寿命の延伸、医療費削減など社会保障政策の基盤要請によって、温泉地活性化は急務であり、全国の温泉は自然の恵みとして、また風土・風習の重要な社会文化資産としても益々評価されなければならないと確認いたしました。

人々の身体や心を癒やしてきた日本の伝統的な湯治文化が、今世界から大きな注目を浴びている中、同じ志をもつ全国の温泉地が、域内の枠を超え、国や自治体そして関連する学会や団体と連携して、自然と調和した豊かで活力ある温泉地づくりを市民と一緒に推進することを新たな決意として、ここに宣言いたします。

令和元年10月23日 鳥取県三朝町にて

温泉を活用した健康づくり広域連携会議

議長 鳥取県三朝町長 松浦弘幸  
参加者右一同

## 温泉を活用した健康づくり広域連携会議参加者

令和元年10月23日900~1200 於 三朝町総合文化ホール

(敬称略 順不同)

山本麻衣	環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長
松浦弘幸	鳥取県三朝町長
首藤勝次	大分県竹田市長
森田康之	大分県竹田市商工観光課副主幹
河田誠一	北海道豊富町長
山内英夫	北海道豊富町商工観光課長
大西倉雄	山口県長門市長
堀 俊洋	山口県長門市市民福祉部審議監
藤永義彦	山口県長門市経済観光部観光課長
石田耕太郎	鳥取県倉吉市長
山崎昌徳	鳥取県倉吉市副市長
木藤隆親	鳥取県倉吉市企画課企画員
稲毛一智	鳥取県倉吉市企画産業部商工観光課主任
中野晴美	鳥取県倉吉市地域おこし協力隊
芳野勇一郎	熊本県菊池市副市長
村田義喜	熊本県菊池市経済部商工観光課長
岡 雄一	鳥取県米子市経済部文化観光局長
佐々木俊太郎	宮城県大崎市産業経済部観光交流課係長
岩垣廣一	兵庫県新温泉町企画課長
権瓶勝栄	新潟県阿賀野市商工観光課課長補佐
遠藤忠弘	新潟県阿賀野市商工観光課観光係長
栗原茂夫	一般財団法人日本健康開発財団理事長
岡田友悟	特定非営利活動法人日本スパ振興協会理事長
中澤 敬	一般社団法人草津温泉観光協会顧問
荒木善紀	一般社団法人五頭温泉郷旅館組合理事長
倉沢 章	長野県別所温泉上松や会長
熊野徹児	一般社団法人椿温泉観光協会会長
立谷誠一	社会福祉法人白浜コスモスの郷理事長
嘉田良平	学校法人四條畷学園大学リハビリテーション学科教授
坂内和孝	株式会社皆生温泉観光株式会社代表取締役
片山 徹	株式会社瀬戸内温泉たまの湯副支配人
佐々木裕介	一般社団法人玉野コミュニティデザイン総括マネージャー
重 隆文	株式会社アクアエンタープライズ代表取締役
北出恭子	スプリングラボ合同会社代表
後藤健太郎	公益財団法人日本交通公社主任研究員
三友紀男	特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム会長
合田純人	特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム常任理事
坂本 誠	特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム専門委員
樽井由紀	特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム研究委員
芦田倍芳	特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム事務局（現地）

## 添付資料-2-1 温泉を活用した健康づくり連携会議資料

### 第一部「温泉を活用した健康づくり広域連携会議」

■主旨 超高齢社会の中、健康寿命の延伸・医療費削減など社会保障政策の基盤要請によって、全国の温泉地で温泉を健康づくりや介護・福祉に活用する温泉の社会的活用が地域の大きな関心事になっています。近年、温泉を疾病予防や健康増進として活用した日本に古くからある湯治文化—近代医学では補えない人間の本来持つ本質的な生命力を再生する装置として温泉とそれを取り巻く自然環境—が社会的な資本として見直されています。温泉地を持つ地域行政は観光資源としてだけでなく健康・福祉など総合的に取り組んだ温泉行政が求められています。そのため、観光地としていままでは競合関係にあった全国の温泉地が、限られた資源である温泉を地域資源としていかに有効に活用するか、そのため自治体のみならず、温泉に関係する産官学の立体的な連携が不可欠で、その経験や政策の情報共有のネットワーク化を図り、より広域に様々な分野で連携することにより、温泉の社会的利用の可能性を探り、市民の豊かで健康な生活を創生していくことを本会議の主旨といたします

■日時 令和元年10月23日(水) 9:00~12:00

■会場 三朝町総合文化ホール大会議室

■参加者(別紙添付参加者リスト)

- ・温泉行政官庁
- ・全国温泉地自治体首長
- ・全国温泉地関連団体・事業者
- ・健康と温泉関係中央団体・組織
- ・医学会・学術有識者・大学関係者 他

■プログラム

9:00 開会(司会:ファシリテーター 合田純人 健康と温泉フォーラム常任理事)

開会挨拶/会議趣旨説明(議長:松浦弘幸 三朝町長)

来賓挨拶 山本麻衣(環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長)

参加者紹介(司会より)

9:20 プレゼンテーション「温泉を活用した健康づくり広域連携会議の課題と展望」

- ・温泉医学会の立場から 三友紀男\*\* (健康と温泉フォーラム会長)
- ・関連組織の立場から 栗原茂夫(日本健康開発財団理事長)
- ・地方行政から 首藤勝次(大分県竹田市市長)
- (各5~8分) 河田誠一(北海道豊富町市長)
- 大西倉雄(山口県長門市市長)
- 石田耕太郎(鳥取県倉吉市長)
- 芳野勇一郎(熊本県菊池市副市長)

- 資料(参照) \*\* 記念誌P5収録「温泉療法医の広域連携による温泉地活性化計画」

10:45 休憩

11:00 討議セッション 主な発言者

熊野徹児(和歌山県白浜町椿温泉観光協会会長)

倉沢章(長野県上田市別所温泉上松や会長)

中澤敬(群馬県草津町草津温泉観光協会顧問、前草津町長)

立谷誠一(和歌山県白浜町社会福祉法人白浜コスモスの郷理事長)

坂本誠(健康と温泉フォーラム専門委員)(課題の整理)

首藤勝次(大分県竹田市市長)

- 11:45 「まとめ」（松浦議長）
- 11:50 「温泉を活用した健康づくり広域連携会議」  
会議宣言採択
- 12:55 閉会挨拶（松浦議長）
- 12:00 閉会 記念撮影



2-2 参考（想定温泉地連携：フォーラムまとめ） ●確定 ○検討中

		新 広域連携 (旧ラ・ラ連携拡大)	日本の名湯百選	国民保養温泉地	医療費控除（連携型）
新潟県阿賀野市	村杉温泉	●	●		
	五頭温泉郷	●		●	○
鳥取県三朝町	三朝温泉	●	●		
鳥取県倉吉市	関金温泉	●	●	●	○
山梨県北杜市	増富温泉郷	●	●	●	
秋田県仙北市	玉川温泉	●	●	●	○
北海道豊富町	豊富温泉	●	●	●	(●)
熊本県菊池市	菊池温泉	●	●	○	○
大分県竹田市	長湯温泉	●	●	●	(●)
山形県鶴岡市	湯野浜温泉	○	●	●	
宮城県大崎市	鳴子温泉郷	●	●	●	
石川県加賀市	山中温泉	●	●		
山形県大蔵村	肘折温泉	●	●	●	
長野県上田市	別所温泉	●	●		
長野県上田市	鹿教湯温泉	○	●	●	●
福島県いわき市	いわき湯本温泉	○	●		●
山口県長門市	俵山温泉	●	●	●	
兵庫県新温泉町	浜坂七釜湯村温泉	●	●	●	
鳥取県米子市	皆生温泉	●			
岡山県玉野市	瀬戸内温泉	●			(●)

2-3 温泉地連携の想定政策的目標「温泉を活用した健康づくり・介護・福祉の社会的活用」の政策立案とその具体的な目標設定及び具体的な行動計画の立案

政府が検討する成長戦略の柱の一つ

「予防医療を通じた健康寿命の延伸」で2020年度予算1,500億円特別計上  
内 温泉活用推進政策の新・連携による目標設定とその推進計画の立案

- |            |  |
|------------|--|
| 全世代型社会保障改革 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 65歳以上への継続雇用年齢の引き上げ</li> <li>・ 新卒一括採用の見直しや中途採用の拡大</li> <li>・ <b>予防医療を通じた健康寿命の延伸</b></li> </ul>   |
| 第4次産業革命    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現金を使わない「キャッシュレス」の普及</li> <li>・ 運転支援機能のついた車に限定した高齢者向け免許の新設</li> <li>・ 自治体管理のもとでの自家用車での有料送迎の解禁</li> <li>・ データーを活用したインフラの維持・管理（ビッグデーター）</li> </ul> |
| 地方対策       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地銀の統合促進に向けた独占禁止法の見直し</li> <li>・ 外国人労働者の活用</li> <li>・ 一極集中の是正や人口急減地域の活性化</li> </ul>  |

### 添付資料 3 参加者リスト（地元除く）

	区分	氏名(敬称略)	所属
1	中央官庁	山本麻衣	環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長
2		高橋尚子	環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長補佐
3	地方自治体	首藤勝次	大分県竹田市市長
4		森田康之	大分県竹田市商工観光課副主幹
5		石田耕太郎	鳥取県倉吉市長
6		山崎昌徳	鳥取県倉吉市副市長
7		稲毛 智	鳥取県倉吉市企画産業部商工観光課主任
8		中野晴美	鳥取県倉吉市地域おこし協力隊
9		木藤隆親	鳥取県倉吉市企画課 企画員
10		河田誠一	北海道豊富町長
11		山内英夫	北海道豊富町商工観光課長
12		芳野勇一郎	熊本県菊池市副市長
13	村田義喜	熊本県菊池市経済部商工観光課長	
14	佐々木俊太郎	宮城県大崎市産業経済部観光交流課係長	
15	岩垣廣一	兵庫県新温泉町企画課長	
16	大西倉雄	山口県長門市市長	
17	堀俊洋	山口県長門市市民福祉部審議監	
18	藤永義彦	山口県長門市経済観光部観光課長	
19	権瓶勝栄	新潟県阿賀野市商工観光課長補佐	
20	遠藤忠弘	新潟県阿賀野市商工観光課観光係長	
21	荒川光昭	山形県大蔵村診療所所長（温泉療法医）	
22	岡雄一	鳥取県米子市経済部文化観光局長	
23	関連組織（後援）	栗原茂夫	一般財団法人日本健康開発財団理事長
24		石田 心	一般財団法人日本健康開発財団専務理事
25		岡田友悟	NPO法人日本スパ振興協会理事長
26	関連組織（温泉地）	木村裕吉	山形県大蔵村観光協会会長
27		荒木善紀	一社五頭温泉郷旅館組合理事長
28		中澤 敬	一社草津温泉観光協会顧問（前草津町長）
29		坂内和孝	皆生温泉観光株式会社代表取締役
30		倉沢 章	別所温泉上松屋会長
31		片山 徹	瀬戸内温泉たまの湯副支配人
32		佐々木裕介	一社玉野コミュニティデザイン総括マネージャー
33		熊野徹児	椿温泉観光協会会長
34		樋口稔起	関金温泉旅館組合組合長
35		立谷誠一	社会福祉法人白浜コスモスの郷理事長
36	内藤陽子	島根県温泉津温泉薬師湯代表	
37	学会・報道・その他	重 隆文	アクアエンタープライズ代表取締役
38		猪熊茂子	千葉中央メディカルセンター部長（温泉療法医）
39		嘉田良平	四條畷学園大学リハビリテーション学科教授
40		北出恭子	スプリングラボ代表 温泉タレント
41		後藤健太郎	公益財団法人日本交通公社主任研究員
42		フォーラム本部	三友紀男
43	合田純人		NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事
44	坂本 誠		NPO法人健康と温泉フォーラム専門委員
45	芦田倍芳		NPO法人健康と温泉フォーラム 事務局
46	樽井由紀		NPO法人健康と温泉フォーラム 事務局

## 添付資料 4 報道記事

日本海新聞本紙 2019年10月24日



## 日本海新聞 Net Nihonkai

2019年10月24日

### 温泉を活用した健康づくり全国大会 三朝町で開幕

「温泉を活用した健康づくり全国大会～健康と温泉フォーラム～」(実行委など主催)が23日、三朝町内で2日間の日程で始まった。全国の12自治体と16温泉地の関係者が参加。初日は、温泉の有効活用を一体となって考える広域連携会議を発足させたほか、同町の児童生徒による“温育プログラム”の発表や記念講演などがあり、温泉地の今後の方向性について考えた。開会式では、広域連携会議の目的などを報告。議長の松浦弘幸三朝町長が「自然と調和した豊かで活力ある温泉地づくりを推進する」とした三朝宣言をした。発表では、三朝温泉の歴史などを学んでいる三朝小3年生46人がステージに立ち、同温泉に由来する「白狼伝説」を劇仕立てで紹介。歌と踊りも披露し、同温泉をアピールした。三朝中学生が制作した同温泉のPRビデオも流された。同町にゆかりがある女優で写真家の松田美由紀さんによる記念講演では、健康の大切さを強調。自身の病気にも触れながら「温泉に入ってほっと一息が一番最高」とした。24日はランナールみささで新・湯治セミナーがある。(前田雅博)



三朝温泉をアピールする三朝小の児童たち=23日、三朝町総合文化ホール

# 日本名湯百選に湯村

## 浜坂・七釜に続き認定



三友会長(右)から日本名湯百選の認定書を受け取る田中副町長(中央)と朝野会長=24日夜、新温泉町湯

### 湯治としての魅力向上へ

「日本の名湯百選連携会議」が24日、新温泉町湯の旅館「ゆめ春来」で開催され、浜坂・七釜温泉に加えて新たに湯村温泉が追加認定された。主宰するNPO法人「健康と温泉フォーラム」の三友紀男会長から、新温泉町の田中孝幸副町長と朝野昌昭観光振興協議会会長に認定書が手渡された。温泉を活用した健康増進の機運醸成に利用していく方針。

(松本妙子)

「日本の名湯百選」は温泉法医が勧める健康と保養の温泉地として、同法人が選定。全国健康増進や疾患予防などの湯治、資源管理や自然環境保全、温泉文化の伝承などを基準に全国約3200の温泉を検証している。1989年以降に温泉地79件が登録され、兵庫県ではすでに浜坂・七釜・城崎・有馬・赤穂が選ばれている。

鳥取県三朝町で23日に始まった同法人の全国大会で、湯村温泉の追加認定が決まり、会場を同温泉に移したこの日、認定式が行われた。同法人の会田純人常任理事は「温泉施設の充実、温泉利用指導の人材育成、町の協力網があり、健康増進の(67)同一の「おしろひめ2の3」(雌15カ月)が選ばれ、3席までを美方部勢が独占した。

中井さんは「毎日手をか

温泉地づくりに向かつて体制ができた」と湯村温泉を評価した。

認定書を受け取った朝野会長は「とてもありがたい。滞在型の新湯宿場を目指す客層を広げるきっかけとし、未病PRや健康志向のバリエーション化などハリエーションを増やしたい」と話し、今後の魅力発信への意気込みをみせた。

連携会議では、長野、鳥取、山口、熊本などの温泉地の実践報告や湯治活用に

中井さん 新温泉名譽賞 種牛

肉牛 谷口さん 主に和事感謝状

肉畜産共進会

主催が25日、同町湯の町民センターで開かれる。午前9時半〜10時半。誰でも参加できる。

NPO健康と温泉フォーラムの三友紀男会長が「温泉活用による健康増進について」と題して講演する。

おんせん天国室。

### 香住JC「RVパーク」発信 大阪 ツーリズムEXPO開幕



香美町のRVパークを紹介するブースで来場者にアピールする島崎さん=24日、大阪市住之江区のインテックス大阪

大阪市住之江区のインテックス大阪で24日、世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2019」(大阪・関西)が開幕した。全国47都道府県と海外100の国と地域から、1475の企業や団体がブースを出展。香美町の香住青年会議所(JC)は、キャンピングカーユーザーが車中泊できるスペース「RVパーク」を推進する日本RV協会(横浜市)と連携して、同町の魅力を発信した。

18年に県内第一号のRV

つりに生かしてもらおうと、観光業や旅館、温泉施設、介護予防の関係者のほか、地域住民などに参加を呼び掛けている。

問い合わせは電話0796(09)2615、同町おんせん天国室。

贈り物のことなら

みみちゃんクイズ